

三重看護学誌投稿規定

MNJ 編集部

1. 本誌の名称および目的

本誌は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻が発行するもので、名称を三重看護学誌 (Mie Nursing Journal: MNJ) とする。MNJは、看護学に携わる研究者、教育者、実践家等が、日々の研究・教育・実践活動上の課題や対策等について科学的根拠をもって広く一般に周知するとともに、独自性の強い研究成果を世に問うことを目的とする。そのため、幅広い看護学分野における論文を掲載し、原則として年1回発行する。

2. 投稿資格

原則として、筆頭著者または共著者に、以下の項目に該当する者が含まれているものとする (筆頭著者が学部生の場合は受け付けない)。ただし、委員会で承認された場合には、この限りではない。

- 1) 三重大学大学院医学系研究科教職員
- 2) 三重大学医学部附属病院の職員
- 3) 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻在籍者または修了者等

3. 投稿原稿の種類

原稿は5種類であり、それらの基準は以下のとおりとする。枚数は、図表を除くものとする。

- 1) 原著論文 (12頁以内・19,200文字以内・図表除く)
独創的な内容あるいは新しい事実に基づき得られた知見と実践への示唆について、論理的かつ学術的に述べられている研究論文
- 2) 総説 (12頁以内・19200文字以内・図表除く)
ある主題に関連した研究の総括であり、多面的な知見の集約と文献等のレビューにより、当該テーマについての学問的状況の概説と考察を行ったもの
- 3) 研究報告 (9頁以内)
独創的な内容あるいは新しい事実を含み、得られた知見が論理的に述べられている研究論文
- 4) 資料 (9頁以内)
実践または教育の発展に向けて、論理的に科学的根拠を示した研究論文
- 5) その他委員会報告、MNJ編集部からの依頼原稿 (特別論文、巻頭言など)

4. 倫理的配慮

研究の着手、計画、実施、成果公開のすべての過程において倫理的な配慮がなされた論文を投稿する。ヒトおよび動物が対象である研究は、研究倫理審査委員会等の承認を経て、その旨を論文中に明記する。

5. 利益相反

全ての著者は、発表内容に関係する企業・組織・団体との利益相反状態について、「謝辞」欄の後に記述する。利益相反に相当しない場合は、「本研究における利益相反は存在しない」と明記する。

6. 執筆要領

原稿の作成は、別に定める執筆要領に従うものとする。

7. 投稿手続き

- 1) 受付期間：受付期間は、当該年度の初めにMNJ編集部が決定し、本学ウェブサイト (<https://www.medic.mie-u.ac.jp/nur/mnj/>) に掲載する。

2) 投稿方法

- (1) 投稿予定者は本学ウェブサイトに掲載された期日までにMNJ編集部のアドレス (mnj-nurse@med.mie-u.ac.jp) に送信する。メールタイトルは、「投稿申し込み」とする。
- (2) 提出する内容「投稿原稿 (正本1, 副本1)」「投稿申込書」「投稿チェックリスト」
※「投稿申込書」および「投稿チェックリスト」は、本学ウェブサイトよりダウンロードする。副本は投稿者氏名・所属・謝辞等の投稿者が特定されるような固有名詞を記載しないものとし、編集可能な文書ファイルで作成する。
※※投稿原稿のファイル名は、「氏名_正_タイトル (略称)」「氏名_副_タイトル (略称)」とする。



8. 原稿の受付および採否

- 1) 上記7の手続きを経た原稿の到着日を受付日とする。
- 2) 原稿の採否は査読を経て、委員会が決定する。MNJ編集部の依頼した者が査読を担う。
- 3) 査読により論文内容の追加・修正を求められた投稿者は、指定期間内に再提出する。期間内に再提出がない場合、投稿を取り下げたものとして扱われる。
- 4) 掲載論文の種類については、著者および査読者の意見を尊重し、MNJ編集部が最終的に決定する。

9. 校正

論文受付後の著者校正は原則1回とし、校正の際の加筆を認めない。

10. 著作権

掲載論文に関する著作権は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻に帰属する。掲載論文は電子化され、論文は三重大学学術機関学部リポジトリ (<https://mie-u.repo.nii.ac.jp/>) に掲載される。



附 則

- この規定の改訂は、令和2年4月1日より施行する。
- この規定の改訂は、令和3年9月15日より施行する。
- この規定の改訂は、令和4年6月1日より施行する。

三重看護学誌執筆要領

IT・図書・MNJ委員会

1. 投稿する原稿は、未発表のものあるいは他の学術雑誌に投稿中でないものとし、原則として和文または英文とする。和文論文にも英文の題名をつける。
2. 原稿は、次の要領に従い、以下の番号の順に執筆する記載がない場合はAPA第7版に準じる。
 - 1) 表紙
表題(和文および英文)、著者名(和名の場合は英語併記)、所属(日本語表記)を記述する。また、本文枚数(文献を含む)、図・表および写真等の枚数をそれぞれ明記する。
 - 2) 要旨
和文(400字程度)および英文(250words)とする。要旨の後には、5単語以内のキーワード(Key words)をつける。但し、「資料」および「その他」の原稿には不要とする。
 - 3) 本文
 - (1)【原稿様式】原稿は、縦置き、横組1段とし、片面印刷とする。用紙は、A4判(白無地のコピー用紙)とし、余白は左右25mm、上30mm、下20mmとし、左辺に行番号、下辺中央にページ番号を付すこと。
 - (2)【原稿書式】原稿の作成には、原則としてワードプロセッサを用い、1ページは40文字40行程度とする。本文で用いる書体は、原則として、和文に明朝体、英文にTimes体を用いて、文字サイズを12ポイントにする。見出しなどは必要に応じてゴシック体に変更し文字サイズを大きくしてもよい。
 - (3)【論文構成】論文の基本構成は、原則として、序論・研究方法・結果・考察・結論・謝辞・文献とする。
 - (4)【図表様式】図、表、写真は適切な位置に配置する。図は、グレイ階調あるいはカラーで作成する。図番号をアラビア数字で連番に振り、図のタイトルとキャプションを付けること。表も同様に、連番の表番号を振り、表のタイトルをつけ、必要に応じて表注を付すこと。
 - (5)【略語】略語は、原則として、初出の際に正式名を記述し、括弧内に以降で使用される略語を記入し、略語の意味が理解できるようにする。
(例) 日常生活動作(Activities of Daily Living, 以降ADLと記す)
 - (6)【文献記載】文献の記載は、APA第7版*に準じる。ただし、和文の文献を引用する際には、下記の例を参考にする。

*Publication Manual of the American Psychological Association: The Official Guide to APA Style 7th ed.
ISBN-13 : 978-1433832154

《記載例》

五味彩乃, 安積陽子, 中村真弥. (2021). 授乳に伴う乳頭損傷7所見への対処法. 日本母乳哺育学会雑誌, 15(2), 112-121.

【単行本】

著者名. (発行年次). 書名(版数). 出版社名, 発行地.

著者名. (発行年次). 章の表題, 編者名, 書名(版数), ページ数, 出版社名, 発行地.

《記載例》

谷村晋. (2010). 地理空間データ分析. 共立出版, 東京.

季節子, 澤田貴志. (2015). 在日外国人の医療. 日本国際保健医療学会編, 国際保健医療学(第3版), pp.218-220, 杏林書院, 東京.

【翻訳本】

原著者名. (発行年次) / 訳者名. (翻訳書の発行年次). 翻訳書名(版数), 出版社名, 発行地.

《記載例》

ポーリット D.F., ベック C.T.(2004) / 近藤潤子. (2010). 看護研究原理と方法(第2版), 医学書院, 東京.

【オンライン文献】

著者名(発行年次). タイトル, URL, 閲覧日.

《記載例》

日本看護協会(2015). 平成26年度保健師の活動基盤に関する基礎調査報告書(平成26年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業). <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2015/26-katsudokiban.pdf>, 閲覧日(2018年2月28日).

附 則

この規定の改訂は、令和2年4月1日より施行する。

この規定の改訂は、令和4年6月15日より施行する。

専攻科外査読者名

井關 敦子（岐阜大学医学部看護学科）

編集後記

With コロナにおける感染対策のあり方が検討される中、教育、研究において様々な工夫や対応が求められる状況が依然として続いており、1日も早いコロナ収束と正常化を切に願います。

さて、三重看護学誌第25巻では、報告1編、資料5編、解説1編、書評1編の内容が掲載されております。

報告として「地域在住高齢者における社会参加の種類と健康の縦断的関連：文献レビュー」は、高齢者の包括的な健康に関する社会参加に注目した文献検討です。資料のうち、小児看護学領域、母性看護学領域に関する3編の文献検討では、「NICUに入院している先天性疾患をもつ子どもの両親のネガティブな思いに関する文献検討」において、思いが急性期から終末期に至るまで持続し、時期に応じて変化することをから、両親の思いを理解し把握した上で両親への心理的ケアを考える必要性を明らかにしています。また「医療的ケア児を育てる親が抱いた困難感に関する文献検討」では、NICU看護師自身が在宅療養のイメージを持ち具体的な支援を行う必要性が示されており、「妊娠中絶に携わる看護職の苦悩に関する文献検討」では、看護職の苦悩を6カテゴリ化し提示しています。

他2編として「全人的苦悩をもつ患者に対するコミュニケーションを学ぶロールプレイ演習の効果：病棟看護師4名の事例研究」は、全人的苦悩の1つである身体的苦痛を緩和するための知識や技術の強化につながる演習内容の充実を課題としてあげています。また、4名を対象にした質的記述的研究では「精神科慢性期病棟に長期入院している患者が抱く退院への希望と退院できないと考えている理由」を明らかにしています。

以上、本号での掲載が初めてとなる解説、書評を含め、三重看護学誌にふさわしく多彩な領域が包含されています。

今後も三重看護学誌の発展のため、より多くの皆様から、新たな知見に関する投稿をお待ちしております。

2023年3月

三重看護学誌編集部長

福 録 恵 子

令和4(2022)年度
三重看護学誌編集部

編集部長：福 録 恵 子
編集部員：谷 村 晋
平 松 万由子
船 尾 浩 貴
近 藤 桃 子
小 川 将 太

三 重 看 護 学 誌

第 25 卷

印 刷 2023 年 3 月 31 日
発 行 2023 年 3 月 31 日
発 行 者 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻
〒 514-8507 津市江戸橋 2 丁目 174 番地
TEL (059) 232 - 1111 (代)
FAX (059) 232 - 8065
印 刷 所 伊 藤 印 刷 株 式 会 社
〒 514-0027 津市大門 32 - 13
TEL (059) 226 - 2545 (代)
FAX (059) 223 - 2862
